

特別枠 多頭飼育崩壊現場支援報告書



申請 No.3

申請日：2016年5月1日

場所：大阪府豊中市 実施責任者：高橋圭一

協力団体：ドットテールズ

居住環境：豊中市市営住宅（15階建て）の2階部分 3LDK

居住者：60代夫婦

生活保護の需給状況：有

申請から不妊手術完了までの経緯（報告書より）

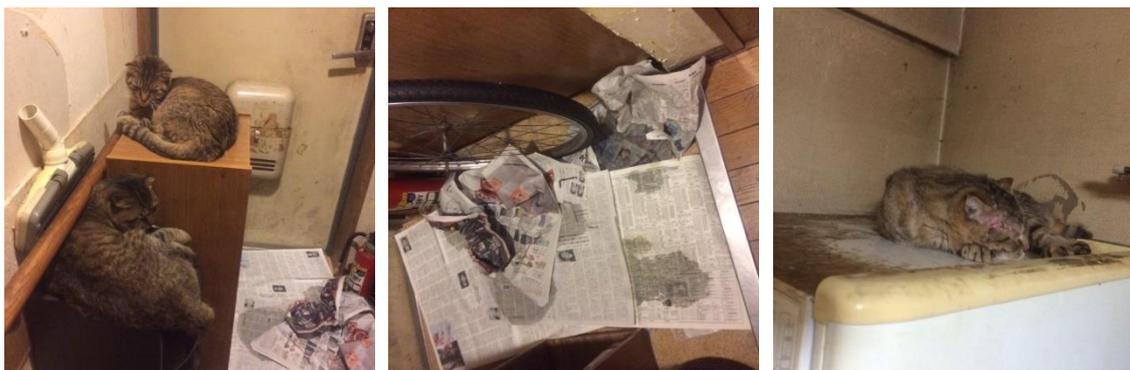
申請者 T 氏が以前に保護猫を譲渡した里親さん経由で相談が入り、現場に訪問した。ドアを開けると、強烈な糞尿臭で、ドアの外まで臭っている。いたるところに猫がおり、廊下にはおしっこがあちらこちらにある。フードと水は十分に用意されているが、ゴキブリが徘徊している。成猫にまじり生後2～3日くらいの子猫の遺体が放置されていた。現場は、60代生活保護の夫婦2人暮らしであった。訪問時に、17頭の猫と、産まれたばかりの子猫の遺体を確認。頭数が多いため、どうぶつ基金の無料不妊手術事業への申請に至った。どうぶつ基金から、捕獲器とケージを借り、天神橋バンビの森動物病院で不妊手術を行った。室内飼育をすること、猫のトイレを増やす約束で去勢手術を終えたオス12頭を飼い主宅に戻し、メスと子猫は里親探しを行うこととなった。

不妊手術頭数

手術日	オス	メス	耳カットのみ	計
5月5日	12	5	0	17

どうぶつ基金負担：不妊手術

現場写真



今回の取り組みを振り返り、改善すべき点や今後の配慮事項（報告書より）

4月29日に連絡があり、5月4日に保護し、5日に手術を行い、当日に飼い主宅に戻すスケジュールで実施した。GWの休み期間であったため猫を一晩置いておく場所を確保でき、ボランティアの人員も確保できたことが大きかった。もし、5月いっぱい数頭づつ引き出して、手術を受けさせていたら、すべて上手くいかなかったと思う。

支援実施の様子



一斉手術の日の様子



天神橋バンビの森動物病院で手術を実施



里親探しを行う猫は綺麗にシャンプーし、血液検査等を実施し、譲渡会などに積極的に参加をしている。

どうぶつ基金スタッフメモ

今回のケースは、実施責任者のボランティア T 氏に、相談が入ってから、現場の視察、どうぶつ基金への申請、病院での全頭不妊去勢手術完了に至るまで、非常に短期間のうちにスムーズに実施されている。時間をかけて不妊去勢手術を実施すると、全頭実施までにメス猫が出産してしまう可能性も高くなる。そういった中で、今回のケースに関わった T 氏やドットテールズの方々のスピード感と実行力は大変素晴らしいものであった。